

平成26年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点																				
基礎 基本	③ 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を克服する特別支援教育の充実を図る。	生徒一人一人の発達段階や特性等を生かした生活指導及び学習指導を行う。	特別支援教育	特別に支援を必要とする生徒を把握し、個別の年間指導計画を作成する。	A 特別に支援が必要な生徒の実態を把握し、個別の年間指導計画の作成を行い、計画に沿って指導が行えた。 B 特別に支援が必要な生徒の実態を把握し、個別の年間指導計画の作成ができた。 C 特別に支援が必要な生徒の実態が把握できた。 D 特別に支援が必要な生徒の実態が不十分であった。							特別に支援が必要な生徒に対して個別の支援計画を作成し、計画に沿って指導を行った。	様々な支援の方法を関係機関と連携をとりながら実施する。																				
		将来の就労に向けて、好ましい人間関係を自らつくることのできるような学級集団づくりを行い、協調性と思いやりの心を育てる。		調理実習や奉仕活動、体験活動を通じて協調性や思いやりの心を育てる。	A 学期に2回程度実施できた。 B 学期に1回実施できた。 C 年間で1回実施できた。 D 実施できなかった。					実習や校外活動、体験活動を実施し、コミュニケーション能力や社会性を身につけさせることができた。	本年度の取組を継続する。																						
		集団参加の力と社会性を育て、共に育ち合う交流活動を推進する。		交流学級での活動に積極的に参加する。	A 全生徒が交流学級での活動を行った。 B 半数以上の生徒が交流学級での活動を行った。 C 1人の生徒が交流学級での活動を行った。 D 1人も交流学級で活動することができなかった。					学校行事や学年の取組・授業において、積極的に交流学級の活動に参加することができた。	本年度の取組を継続する。																						
		家庭や関係機関との連携を図るとともに、将来の希望や具体的な目標を持てるように適切な進路指導を行う。		卒業後の進路保障を確実に行う。	A 卒業生全ての進路を保障することができた。 B 50%以上の卒業生の進路を保障することができた。 C 50%未満の卒業生の進路を保障することができた。 D 1人も進路を保障することができなかった。					本人、保護者とも十分に話し合い、生徒の希望する進路を保障することができた。	次年度も保護者との連携を密にして、進路指導を行う。																						
	④ 学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	学校図書館の昼休み開館を目指す。	図書館教育	ブックヘルパーを活用し、昼休みに開館できる体制をととのえる。	A 毎日開館することができた。 B 週3回開館することができた。 C 週2回開館することができた。 D 開館が週1回程度だった。	学校は、読書の習慣が身に付くように指導した。中間No.8	3.2	A 2週間に一冊程度本を読む。 B 1ヶ月に一冊程度本を読む。 C 3ヶ月一冊程度本を読む。 D 本を読まない。	2.6	A 2週間に一冊程度本を読む。 B 1ヶ月に一冊程度本を読む。 C 3ヶ月一冊程度本を読む。 D 本を読まない。	2.9	ブックヘルパーの協力もあり、常時開館を実施し、生徒の読書活動の推進に取り組んだ。	次年度も継続して取り組む。																				
		図書を読みやすく居心地のよい学校図書館の環境を整備する。		本の配置図を掲示したり、新着図書の紹介をしたりして、生徒が利用しやすい環境をつくる。	A 掲示物や新着図書の紹介を随時更新することができた。 B 掲示物や新着図書の紹介の更新を月1回以上することができた。 C 掲示物や新着図書の紹介の更新を学期に1回することができた。 D 掲示物や新着図書の紹介を行うことができなかった。									ブックヘルパーや図書委員会を中心に、生徒が利用しやすく明るい図書館になるよう環境づくりを行った。	図書委員会を活用し、充実を図る。																		
		図書について、生徒への情報提供や相談活動を行う。		ブックヘルパーによるレファレンスサービスの充実を図る。	A 授業と連携して蔵書の充実を図り、図書館便りを発行し、生徒へのレファレンスサービスを随時実施した。 B 授業との連携を意識して、蔵書の充実を図り、生徒へのレファレンスサービスを随時実施することができた。 C 生徒へのレファレンスサービスを実施することができた。 D 生徒へのレファレンスサービスを実施することができなかった。											掲示板を利用して、学習に役立つ内容を紹介したり、図書館の利用を勧めたりすることができた。	今後取組を継続する。																
		学校図書館を活用した授業を推進する。		学校図書館を利用した授業の実施に努めるとともに、読書習慣の形成を図る。	A 学期に2回以上図書館を利用した授業を実施した。 B 学期に1回図書館を利用した授業を実施した。 C 図書館を利用した授業を実施した。 D 図書館を利用した授業を実施することができなかった。													教科によって授業で調べ学習を実施したり、読書習慣の向上などの取組を行ったりした。	図書館の利用の呼びかけを継続して行う。														
		朝の10分間読書の在り方を見直し、一層の推進を図る。		担任も可能な限り、一緒朝の10分間読書に取り組み、生徒の読書習慣の定着を図る。	A 90%以上の生徒が朝読書に真面目に取り組んだ。 B 70%以上の生徒が朝読書に真面目に取り組んだ。 C 50%以上の生徒が朝読書に真面目に取り組んだ。 D 朝読書を真面目に取り組んだ生徒が50%未満だった。															今年度も年間を通して、全校一斉の朝の10分間読書を実施し、生徒の読書習慣の定着に努めた。	今後取組を継続する。												
		⑤ 豊かな体験を通して、一人一人の内面に根ざした道徳性を養う道徳教育を推進する。		道徳の時間を確保し、年間計画に基づいた実践を行う。	道徳教育																	「私たちの道徳」や「北九州道徳郷土資料」などを積極的に活用し、年間指導計画に基づいて実践する。	A 重点目標に力点を置いて計画した全ての項目が実施できた。 B 重点目標に力点を置いて計画した項目が概ね実施できた。 C 重点目標に力点を置いて計画した項目の実施状況がやや不十分であった。 D 重点目標に力点を置いて計画した項目の実施状況が不十分であった。	思いやりの心が育つように指導した。最終No.2	3.5	子どもさんは、思いやりの心が身に付いている。最終No.2	3.2	思いやりの心を持って行動している。最終No.2	3.3	道徳の時間を確保し、生徒の実態に応じて資料を準備し、実施するよう努力した。	年間計画に基づいて、より適切な授業を行う。		
				全職員対象の道徳校内研修会を開催する。	道徳教育																	全教師が道徳の基本方針を踏まえ、共通理解が図られるよう研修の場を設ける。	A 指導主事を要請し、道徳校内研修を年間1回実施した。 B 授業研究をともなった道徳校内研修を年1回実施した。 C 道徳校内研修を実施した。 D 道徳校内研修を実施しなかった。									命の大切さや人に対する思いやりを生徒に伝えるために校内研修会を実施し、職員の意識向上に努めた。	その時々タイムリーな教材を準備する。

平成26年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点							
⑥	学校、生徒、地域の実態等をもとに創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、生徒と教師ともに本物の感動を体験できる教育活動の創造・実践に努める。	体験的な活動・奉仕活動・学校行事等の充実を図るため、総合的な学習の時間を活用した取組を行う。	総合的な学習・体育的行事（各学年）	単元計画に則り、各学習活動を計画的・継続的に進め、指導の工夫改善に努める。	A 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施し、指導の工夫改善に努めた。 B 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施した。 C 調べ学習などの体験学習を計画的に実施した。 D 調べ学習などの体験学習を計画的に実施できなかった。							総合的な学習の時間などを利用して、生徒の興味や関心を高める調べ学習を実施した。	与えられた時間の中で、充実した取組がさらに行えるよう努める。							
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。＜体育大会＞	A 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習計画の立案と実施を行った。 B 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習を行った。 C 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、練習を行った。 D 生徒が主体的にダンス・組体操の練習を行った。									体育大会では、3学年を中心に、積極的に活動に参加し、行事の成功に努めた。	遅刻や見学、体操服忘れがないように個別指導の充実を図る。組体操やダンスの取組を一学期から見直しをもつて行う。					
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。＜文化祭＞	A 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習計画の立案と実施を行った。 B 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習を行った。 C 生徒が主体的に合唱の取組を行い、音が協力して練習を行った。 D 生徒が主体的に合唱の取組を行った。										文化祭では、特に合唱コンクールの取組において各学級で主体的に練習を行い、協力する大切さと達成感を得ることができた。	充実した文化祭となるように、本年度の取組を継続する。開催日程を検討する。				
				保護者の方々と連携した学校行事への取組を計画・実施する。＜クラスマッチ・百人一首大会等＞	A 保護者の方々と連携した行事を年5回以上行った。 B 保護者の方々と連携した行事を年4回行った。 C 保護者の方々と連携した行事を年3回行った。 D 保護者の方々と連携した行事を年2回行った。										クラスマッチでの豚汁づくりを保護者に依頼し、温かい支援を受けることができた。	次年度も継続して協力を依頼する。				
				講師を招聘しての健康学習、進路学習、国際理解教育等を通して生徒に充実した体験をさせる。	A 年間6回以上の体験活動や講演会を実施した。 B 年間3回以上の体験活動や講演会を実施した。 C 年間1回の体験活動や講演会を実施した。 D 体験活動や講演会を実施することができなかった。										国際交流集会、健康に関する講演会等を実施し、生徒が心に残る体験活動を実施することができた。	機会を大切にし、より有意義な体験活動の充実を図る。				
				校外宿泊活動や別研修の取組を通して、生徒が自主的・意欲的に取り組み、目標の達成を図るよう努める。＜修学旅行・農村宿泊体験学習・ふれあい合宿＞	A 事前・事後の取組や活動時において、生徒が自主的・意欲的に行動し、行事の目標を十分に達成した。 B 事前・事後の取組や活動時において、生徒が意欲的に行動し、行事の目標を達成した。 C 行事の目標を概ね達成した。 D 行事の目標を達成することができなかった。										各学年とも校外宿泊活動の取組を通して、生徒が自主的・意欲的に活動できるように、継続的・系統的な指導を行うことができた。	本年度の取組の振り返りを基にして、来年度も継続して指導に当たり、目標の達成を図る。				
				⑦	集団の力を高める特別活動、将来の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を推進する。	学級会活動の時間の充実を図る。	特別活動	A 学級会活動に90%以上の生徒が積極的に参加した。 B 学級会活動に70%以上の生徒が積極的に参加した。 C 学級会活動に50%以上の生徒が積極的に参加した。 D 学級会活動に50%未満の生徒が積極的に参加しなかった。								学級毎に生徒の実態に応じた活動を計画し、積極的に参加させることができた。	時間の確保。特に学校行事に向けた取組を行う。			
								生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）への参加意識を高める。	生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）への参加意識を高める。	A 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に80%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 B 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に60%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 C 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に40%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 D 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）の呼びかけに応じて生徒が40%未満であった。	生徒に生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持たせ、積極的に参加するよう指導した。最終No.6	2.8	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.7	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.5	2.7	生徒会だよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を促した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった。	「人生一冊プロジェクト」の取組も4年目を終え、本の寄贈についてはひとつの区切りをつけた。若手県大植町と連携し、東日本の名産品を紹介するなどして、今後の支援につなげたい。		
								キャリア教育（勤労観・職業観）の視点に立った進路指導の充実を図る。	特別活動	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を図った。 B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施した。 C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。 D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。									職業調べや高校調べ、高校体験入学などを計画的に実施し、特に出前授業では、高校と連携してコースの拡充を図った。	進路学習に積極的に取り組み、進路実現に向けた意識を向上させる。
								集団としての目標を共有し、自他や学校によさに気付く集団活動の充実を図る。	総合的な学習	A 特活・総合・道徳・各教科等において、集団の教育力に着目した取組を行い、全職員の研修を年1回以上実施した。 B 特活・総合・道徳・各教科等において、集団の教育力に着目した取組を行った。 C 特活において集団の教育力に着目した取組を行った。 D 集団の教育力に着目した取組ができなかった。									集団活動による取組を各学年で設定し、集団としての規律や協働の喜びを実感させることができた。	学校や学年行事との関連で、集団としてまとまる意識を向上させる取組をもつて行う。
						学級会活動の時間の充実を図る。	特別活動	A 学級会活動に90%以上の生徒が積極的に参加した。 B 学級会活動に70%以上の生徒が積極的に参加した。 C 学級会活動に50%以上の生徒が積極的に参加した。 D 学級会活動に50%未満の生徒が積極的に参加しなかった。										学級毎に生徒の実態に応じた活動を計画し、積極的に参加させることができた。	時間の確保。特に学校行事に向けた取組を行う。	
								生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）への参加意識を高める。	生徒会	A 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に80%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 B 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に60%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 C 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）に40%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。 D 生徒会活動（委員会・リサイクル活動、人生一冊プロジェクト等）の呼びかけに応じて生徒が40%未満であった。	生徒に生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持たせ、積極的に参加するよう指導した。最終No.6	2.8	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.7	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.5	2.7	生徒会だよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を促した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった。	「人生一冊プロジェクト」の取組も4年目を終え、本の寄贈についてはひとつの区切りをつけた。若手県大植町と連携し、東日本の名産品を紹介するなどして、今後の支援につなげたい。		
キャリア教育（勤労観・職業観）の視点に立った進路指導の充実を図る。	特別活動	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を図った。 B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施した。 C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。 D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。										職業調べや高校調べ、高校体験入学などを計画的に実施し、特に出前授業では、高校と連携してコースの拡充を図った。	進路学習に積極的に取り組み、進路実現に向けた意識を向上させる。							
集団としての目標を共有し、自他や学校によさに気付く集団活動の充実を図る。	総合的な学習	A 特活・総合・道徳・各教科等において、集団の教育力に着目した取組を行い、全職員の研修を年1回以上実施した。 B 特活・総合・道徳・各教科等において、集団の教育力に着目した取組を行った。 C 特活において集団の教育力に着目した取組を行った。 D 集団の教育力に着目した取組ができなかった。										集団活動による取組を各学年で設定し、集団としての規律や協働の喜びを実感させることができた。	学校や学年行事との関連で、集団としてまとまる意識を向上させる取組をもつて行う。							

平成26年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点	
⑧	人権意識の高揚と確かな人権感覚を身に付ける人権教育を推進する。	人権学習の取組を積極的にやる。	人権教育	人権学習を行い、人権啓発作品を製作させる。	A 90%以上の生徒が作品を提出した。 B 70%以上の生徒が作品を提出した。 C 50%以上の生徒が作品を提出した。 D 作品を提出した生徒が50%未満だった。							学年ごとに人権学習を行い、夏季休業日の課題として、全生徒対象に人権作品を提出させ、多くの作品が入賞した。	本校生徒の作品問わず、優秀な作品は、掲示するなどして啓発に努めたい。	
		人権教育講演会等を行い、人権意識の高揚を図る。		「てんつくマン講演会」「性教育講演会」等、人権教育講演会の充実に努める。	A 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った後、全生徒に感想文を書かせた。 B 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った。 C 人権教育講演会を開催した。 D 人権教育講演会を行うことができなかった。							人権教育講演会の充実に努めた。	てんつくマンによる講演会を行い、生徒が正しい人権感覚を身につける機会を設定した。	生徒の人権意識がさらに高まるような講演会等を企画したい。長時間にわたる講演会とDVD鑑賞が2日間で開催するなどの配慮をしたい。
		生徒一人一人が人権への配慮を日常の態度や行動に現せるように人権感覚を育てる。		人権啓発映画や人権啓発テープを活用した人権学習や朝の人権放送「明日への伝言板」に取り組む。	A 人権啓発映画と人権啓発テープを使って人権学習を実施した。 B 人権啓発テープを使って人権学習を実施した。 C 人権学習を実施した。 D 人権学習をしなかった。							映画や朗読CDを使って人権学習を計画的に行った。	人権放送「明日への伝言板」だけでなく、年間を通じて様々な場面で人権意識を高める事ができた。	「明日への伝言板」を継続して活用するとともに、新たなDVD等も視聴させて人権意識の高揚を図りたい。
⑨	社会の変化に対応した環境教育、情報・視聴覚教育、福祉教育を推進する。	生徒会を中心に、環境に関する身近な事象や課題に目を向け、環境教育の取組を一層推進する。	生徒会	年間を通じてペットボトルキャップや古紙回収を推進する。	A ペットボトルキャップや古紙の回収を呼びかけ、実際に回収を行い、リサイクル活動を実施した。 B 積極的にペットボトルキャップや古紙の回収を呼びかけた。 C 古紙回収を行った。 D 取組を実施できなかった。							年間を通じてペットボトルキャップと古紙の回収を実施し、多くのリサイクル資源を集めることができた。	ペットボトルキャップを回収している意義を再確認し、回収量のアップを目指したい。	
		パソコン教室等の一層の活用と情報活用能力の育成を図る。		各教科及び総合的な学習の時間等で、パソコンを活用した授業を計画的に実施する。	A 調べ学習や教科の授業で年間3回以上パソコンを活用した。 B 調べ学習や教科の授業で年間2回パソコンを活用した。 C 調べ学習や教科の授業で年間1回パソコンを活用した。 D パソコンを活用した授業を実施できなかった。								調べ学習や文化祭の取組等でパソコンを有効利用することができた。	来年度も、パソコン教室の利用を増やし、更に授業等において幅広い活用を図る。
		電子黒板・視聴覚資料や機器の活用を図る。		視聴覚教材・教具を使いやすく整備する。	A 視聴覚教材・教具が日常的に授業で使用された。 B 視聴覚教材・教具がよく使用された。 C 視聴覚教材・教具が利用しづらかった。 D 視聴覚教材・教具が整理されず、散逸してしまった。								視聴覚機器の保管場所を整理し、適宜円滑な教材・教具の使用ができた。	使用表などの活用を図り、さらに使用しやすい環境づくりに努める。
⑩	好ましい人間関係を育て、楽しい学校生活の実現を図るとともに、組織的な生徒指導体制の確立（報告・連絡・相談・確認・記録）と家庭・地域・関係機関等との連携を推進しながら、教育活動全体を通して生徒一人一人の自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	問題行動を抑制する生徒指導から、生徒のよきを見つけたすなど、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	生徒指導	生徒個々の状況を的確に把握するために、必要に応じた教育相談、生徒指導を行う。	A 学期に1回の教育相談期間の設定と適時教育相談を行い、生徒の状況把握に努め、適切な生徒指導を行った。 B 年間1回の教育相談期間の設定と適時教育相談を行い、生徒の状況把握に努め、生徒指導を行った。 C 適時教育相談を行い、適切に生徒指導を行った。 D 教育相談を行うことができなかった。		3.3				3.4	定期的なものだけでなく、状況に応じて教育相談と個別面談を実施し、生徒の状況把握に努めた。また、個々の生徒の状況に応じて個別に指導を行った。	諸アンケートの結果を職員で共通理解し、効果的な活用を図る。特に、いじめに関するアンケートと個別面談の充実に努める。	
		スクールカウンセラーとの連携を密にし、積極的に不登校の予防・改善・解消を図る。		スクールカウンセラーや関係職員と連携し、「STOP!不登校たかす」の取組を活用し、学級担任や生徒指導係が不登校生徒宅への家庭訪問や電話連絡を積極的に行き、生徒・保護者との関係を構築する。	A 関係職員が週2回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 B 関係職員が週1回不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 C 関係職員が月に1回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 D 関係職員が不登校生徒宅の家庭訪問を実施しなかった月がある。							生徒が毎日楽しく学校に行けるように取り組んだ。最終No.1	電話連絡や家庭訪問を通して不登校生徒の状況把握に努め、職員の共通理解を図った。	電話連絡や家庭訪問をした際に、さらにきめ細かい情報収集に努め、不登校改善のためのケース会議を行うなどして、対応を充たせる。
		好ましい人間関係を育て、楽しい学校生活の実現を図るため、「対人スキルアップ」の職員研修会を行い、「対人スキルアッププログラム」の展開を推進する。		hyper-QUアンケートや教育相談の事前アンケート等を実施し、生徒指導に活用する。	A hyper-QUアンケートを行い、教育相談の事前アンケートを学期ごとに実施し、生徒指導に活用できた。 B hyper-QUアンケートを行い、教育相談の事前アンケートを年に2回程度実施し、生徒指導に活用できた。 C hyper-QUアンケートを行い、教育相談の事前アンケートを年間1回実施し、生徒指導に活用できた。 D hyper-QUアンケートや教育相談の事前アンケートを実施しなかった。								hyper-QUアンケートを実施し、校内研修会等を通して個々の生徒の状況を把握し、生徒指導に有効に活用した。	hyper-QUの効果的な分析・活用のための時間の確保を行い、学年・学級経営や生徒指導面で活用できるように努める。
⑪	生徒理解・共通理解・共通行動のための「報告・連絡・相談・確認・記録」の徹底と、家庭とのきめ細かな連携を図る。	研修会等を通して、生徒指導体制を徹底すると同時に家庭との連携を密にする。	生徒指導	「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われ、家庭とのきめ細やかな連携を行った。	A 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われ、家庭とのきめ細やかな連携を行った。 B 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われ、家庭との連携を行った。 C 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われた。 D 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が行われないことがあった。							毎月、生徒指導委員会を開催し、生徒の状況把握と共通理解に努めた。また、計画的に職員研修会を実施した。	会議や研修、プリント配付等を通じて情報共有や共通理解に努めたが、報告漏れがないよう記録を残し、連携体制を充実させる。	
		危機管理意識を高める「生徒指導マニュアル・危機管理マニュアル・不審者対応マニュアル」等の徹底を図る。		危機管理マニュアルを周知徹底し、危機管理意識を高める。	A 危機管理マニュアルを配布し、周知徹底するために不審者対応の研修会を行った。 B 危機管理マニュアルを全職員に配布し、周知徹底した。 C 危機管理マニュアルを全職員に配布した。 D 危機管理マニュアルの周知徹底に至らなかった。							危機管理マニュアル・不審者対応マニュアルなどに沿って安全点検を行った。最終No.7	危機管理マニュアルの見直しを行って修正を加え、より充実したマニュアルを作成し、職員に周知徹底した。	実際の場面でマニュアルを基に対応できるように、定期的に研修会等を実施して、職員の意識をさらに高める。
		月一度の安全点検を実施する。		月一度の安全点検を実施し、安全に対する意識を高める。	A 毎月、安全点検を実施した。 B 学期に1回、安全点検を実施した。 C 年に1回、安全点検を実施した。 D 安全点検を実施できなかった。								学校は、施設面や不審者等の外部からの侵入者に対して安全・安心である。最終No.7	学期に1度、必要に応じて校内安全点検を実施することができた。

平成26年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
⑪	生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育(学校保健・学校安全・食育)を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。 B 避難訓練を年間2回実施した。 C 避難訓練を年間1回実施した。 D 避難訓練を実施しなかった。							防災訓練や不審者対応の避難訓練を実施し、啓発に努めた。今年度は避難訓練を年間2回実施した。	次年度は、若松消防署との連携を図って計画を立てる。		
		救急救命講習を開催する。	保健指導	スクール救命士事業の取組として、救急救命講習を開催する。	A 職員・生徒向けの救急救命講習会を年間2回実施した。 B 生徒向けの救急救命講習会を年間1回実施した。 C 救急救命に関する学習を資料を使って行った。 D 救急救命講習会を実施できなかった。								2学年を対象に、スクール救命士を招いての救急救命講習会を開催することができた。	当該学年を対象に継続して取り組む。次年度は、職員向けの講習会も計画する。	
		保健指導の充実を図る。	保健指導	各学年の実態に応じた「性に関する指導」、「SCと連携した自殺予防教室」、「熱中症予防講演会」を実施する。	A 全学年で実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D アンケートのみ実施した。								全学年で「性に関する指導」を実施し、その他、各学年に応じて、講師やSC・養護教諭による保健指導を実施した。	次年度も当該学年を対象に継続して取り組む。	
		若松署と連携した「薬物乱用防止教室」「青少年を暴力団から守る教室」等を実施する。	生徒指導	「薬物等乱用防止教室」と「暴走教室」「インターネットによるいじめ防止教室」を実施する。	A 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴走教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施し、事後指導を行う。 B 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴走教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施する。 C 年間に1回はどれかの教室を実施する。 D どれも実施できなかった。								講師を招いて全学年を対象に「青少年を暴力団から守る教育」を実施し、1年生を対象に「ネットによる誹謗中傷・いじめ等防止講演会」を開催した。	来年度の規範意識育成のための講演会の在り方を検討して、適切に実施する。	
		食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食指導	食育便りを発行することにより、「食」の大切さを意識付ける。	A 年3回以上発行した。 B 年2回発行した。 C 年1回発行した。 D 発行しなかった。									食育だよりを毎月配付し、食の大切さを理解させることができた。	次年度も各教室に食育だよりを掲示し、食の大切さとともに、命の大切さを意識させる。
			給食生食委員会	牛乳パックの減量化と残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。 B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。 C どちらかは概ね減量化された。 D どちらも減量化に至らなかった。									厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	厚生委員長を中心に、構内放送で減量化の声を積極的に実行する。
			給食生食委員会	給食で使用されている食材の情報を校内放送で生徒に提供する。	A 毎日、放送により食材情報の提供を実施した。 B 週2回以上、放送により食材情報の提供を実施した。 C 週1回、放送により食材情報の提供を実施した。 D 食材情報の提供を実施することができなかった。									厚生委員会を中心に、当日の給食の食材情報を放送により広報することができた。	厚生委員会で給食の片付け方について具体的に指示し、改善に取り組む。
		全学年「体力テスト」を実施し、その結果を活用して準備運動を工夫するなど、体力の向上を図る。	保健体育科	体力の向上と結果の活用のため、全学年で体力テストを実施し、その結果を活用する。	A 全学年で体力テストを実施し、その結果を活用した。 B 2つの学年で実施し、その結果を活用した。 C 1つの学年で実施し、その結果を活用した。 D 体力テストを実施することができなかった。									全学年で体力テストを実施し、生徒は活発に参加することができた。	体力テストの結果を参考にし、単元・種目ごとに取組を工夫し、体力の向上を図る。
		⑫	学校のよさや特色を積極的に情報発信する学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの一層の充実を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し、自己評価結果を公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し、公開した。 B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。 C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。 D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取り組む。
						学校運営説明会(4月)・報告会(2月)を開催する。	A 学校運営説明会・報告会を実施し、結果を公表した。 B 学校運営説明会・報告会を実施した。 C 学校運営説明会を実施した。 D 学校運営説明会・報告会を実施しなかった。								
年間2回、学校関係者評価委員会を開催し、評価結果の公表と活用を図る。	A 学校関係者評価委員会を年2回実施し、その評価を公表した。 B 学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価を公表した。 C 学校関係者評価委員会を年1回実施した。 D 学校関係者評価委員会を実施しなかった。														計画通り、学校関係者評価委員会を年間2回実施した。
年間を通じて、各教科の授業公開を推進する。	教務			常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	A 毎月1回以上実施した。 B 年間6回以上実施した。 C 年間3回以上実施した。 D 年間2回以下だった。	授業公開を行うなど開かれた学校づくりに協力した。最終No.9	3.3	学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9	3.1 3.3	年間を通して、常時学校開放を行い、可能な教科の研究授業と対人スキルアップ授業を公開した。	次年度も常時、学校を開放し、研究授業を積極的に行う。				
学校のホームページの一層の充実を図る。	情報教育・教職			随時更新する。	A 週1回更新した。 B 月に2回更新した。 C 月に1回更新した。 D 更新しなかった。	学校は、通信やホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	3.5	校長通信(ジャガイモ)や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校のようすが分かる。最終No.8	3.1	ICTサポーターや情報教育担当を中心に、毎週学校HPの更新を行った。	来年度はさらに更新回数を増やす。				
校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報発信に努める。	各職員			校長通信「ジャガイモ」の発行、地域への回覧やホームページ・学年通信・学級通信等により、学校のよさや特色を積極的に情報発信する。	A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 C 月に1回以上、保護者に配布した。 D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。	学校は、通信やホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	3.5	校長通信(ジャガイモ)や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校のようすが分かる。最終No.8	2.9 3.4	校長通信(ジャガイモ)や学年通信・学級通信などを読んでいる。最終No.8	本年度の取組を継続し、一層の充実を図る。				

保護者アンケート(最終)の評価は、上段は達成度、下段は重要度を表す。